

法律科目試験 「刑事法系」問題

I 次の事項について、それぞれ 400 字以内で説明しなさい。

- (1) 時間的過剰防衛（量的過剰防衛、外延的過剰防衛）
- (2) 用法上の凶器

II 次の事例における、甲および乙の罪責を論じなさい（特別法違反の点は除く）。

甲は、強姦する目的を秘して、日帰りの自動車旅行の名目で女友達 X を誘い出し、自車（以下「甲車」という）に X を乗せて山奥に向かった。甲は、姦淫の場所として予め或る山小屋に目を付けており、強姦目的達成のため、そこに到着するまでは X が逃げ出そうとしても降車させないつもりであったが、X は甲の意図に気付くことなく、助手席に座っていた。

甲が X を乗せて運転を開始してから約 1 時間が経過し、甲車が高速道路上を制限速度内の時速約 80 キロメートルで走行していたところ、乙が運転しその兄 Y が同乗する自動車（以下「乙車」という）が甲車を追い抜こうとした。しかし、甲車が乙車の進路を妨げる形になったことから乙と Y は激昂し、両者が共謀の上、乙車を甲車の後方から 1 メートル以内の距離まで接近させたり並走したりする行為（最接近時の車間距離約 20 センチメートル）を何度も繰り返した。そこで、運転に自信のある甲は、交通量が少なかったこともあって乙車を振り切って逃げようと考え、X もそれに賛成したので、時速 120 キロメートルに加速して進行した。それを見た Y は、乙が数日前に運転免許を取得したばかりで高速道路を走るのは初めてであること、高速での走行によって乙が運転を誤り事故に致る危険があることを熟知しつつも、ここで後には引けぬと意地になり、加速して甲車を追跡するよう乙に命じ、乙はこれに従った。両車は加速当初、道路の直線部分を走っていたが、約 3 キロメートル進行したところで「この先カーブ、スピード落とせ」の標示が見えたにも拘らず、Y は先を行く甲車から離れないよう高速度の維持を乙に指示したため、乙は速度を落とすことなく曲線部分で無理にハンドルを切り、車体を横転させてしまった。その結果、Y は全身打撲により即死し、乙も重傷を負った。車を停めて事故現場まで歩いて様子を見に戻った甲は、その凄惨さに気分が悪くなり、X を姦淫する気を失ったため、X とともに相談の上、山に行くのは止めることにして帰途に就いた。